

# 松木先生を囲む会

日時:平成24年3月9日(金)17:30~  
場所:ウェスティンホテル仙台

## 次第

- 一、開会
- 二、発起人代表挨拶  
昭和54年修了 曾根 好徳 様
- 三、お祝いの言葉  
昭和49年博修了 Chung-In Lee 様 (ソウル大学名誉教授)
- 四、乾杯  
昭和50年卒業 大塚 尚寛 様 (岩手大学教授)
- 五、記念品・花束贈呈
- 六、松木先生挨拶
- 七、記念写真撮影
- 八、閉会

青葉もゆるこのみちのく

作詞 野田 秀

作曲阿座上竹四

編曲 福井 文彦

一、 青葉もゆる このみちのく  
今ここに はらからわれら  
力もて歌う 平和の讃歌  
われらこそ 国のいしずえ  
理想ある 生命は常に美わし

さらば

生さん

友よ

生さん

ああ

東北大

ああ

東北大

二、

萩のかおる このみやぎの  
今ここに 集いしわれらへ  
愛もて求むる 真理の目標  
われらこそ 学都のほこり  
歴史ある 伝統は常に若し

さらば

伸びん

友よ

伸びん

ああ

東北大

ああ

東北大

三、

朝鳥啼く ひろせ川

今ここに やすろうわれら

心もて語る 自由の行手

われらこそ 世界のかなめ

未来ある 若者は常に強し

さらば

行かん

友よ

行かん

ああ

東北大

ああ

東北大

松木先生を囲む会発起人

曾根 好徳

野間 達也

青木 智幸

林 為人

佐藤 稔紀

木崎 彰久

坂口 清敏



## 松木浩二教授 (環境科学研究科)

東北大学工学研究科・工学部  
定年退職教員プロフィール 掲載文

松木浩二先生は、昭和 22 年 11 月に静岡県でお生まれになりました。昭和 46 年に東京大学工学部資源開発工学科をご卒業になり、昭和 48 年に同大学大学院工学系研究科資源開発工学専攻修士課程を、昭和 51 年に同博士課程を修了され、「岩石の圧縮破壊過程に関する研究」で工学博士の学位を取得されました。博士課程修了後、直ちに東北大学工学部資源工学科助手に着任され、昭和 60 年に同講師、昭和 63 年に同助教授に昇任され、この間、昭和 52 年 9 月から 1 年間、米国ウェストバージニア州立大学に在外研究員として勤務され、応力測定法の研究を行われています。平成 4 年 5 月に東北大学工学部教授に昇任され、以降平成 9 年に工学研究科教授、平成 15 年に環境科学研究科教授に就任されました。

先生の研究分野は、岩石の力学的挙動の解明を基礎として、岩石の破壊力学に関する研究、地下き裂の力学挙動と透水性評価、深部地圧測定法および広域応力場評価法の開発、さらにウォータージェットの応用技術と多岐に亘り、その研究成果は、資源・エネルギー開発、大深度地下利用や地殻工学・地殻環境技術分野において、国内外で高く評価されています。

岩石の破壊力学に関する研究では、ISRM (International Society for Rock Mechanics) の標準試験法としての岩石の破壊靱性試験法の開発に尽力され、試験片寸法に依存しない岩石固有の破壊靱性を得るための条件を明らかにされるとともに封圧下での破壊靱性評価法を初めて提案され、後者により資源・素材学会論文賞を受賞されています。

深部地圧計測の分野に関しては、コアを用いた地圧計測法の開発に尽力されました。特に、ASR (Anelastic Strain Recovery) 法に関しては、一般的な三次元応力状態の等方粘弾性体におけるひずみ回復挙動に関する理論的考察に

基づいて高精度三次元地圧計測法を提案され、また、コアディスク法に関しては、地圧下のボーリングに対する応力解析に基づいてディスク形状から三次元的な地圧情報を得る方法を提案されました。これらの方法は、現在国内外の研究者・技術者によって使われるようになってきました。また、限られた地圧測定データから不均一岩体の広域応力場を推定する手法の開発にも尽力され、国際会議において Excellent Paper Award を受賞されたのを始め、核燃料サイクル開発機構から開発功績賞が贈られています。

地下き裂の力学挙動と透水性評価に関しては、一般的条件におけるき裂透水性の評価を中心に研究に取り組んでこられました。具体的には、単一き裂の表面形状と間隙の寸法効果、大規模き裂のコンピュータによる再現法、間隙分布に基づくき裂の弾性的・粘弾性的閉鎖過程の予測法、き裂の力学挙動と透水性の寸法効果、一般的応力条件でせん断変形するき裂の透水性の評価法、さらには地表面傾斜量の逆解析に基づく地下流体流動評価法などに関する研究を精力的に行われました。その成果は、地熱エネルギー開発や高レベル放射性廃棄物処分に於いて有用な知見として評価されています。

ウォータージェットのエネルギー開発への応用に関しては、ウォータージェットによる高压水中での切削・穿孔法に関する研究に尽力されました。すなわち、ウォータージェットによる硬質塩化ビニルケーシングパイプのパーフォレーション、水中アブレイブジェットによる鋼製ケーシングのパーフォレーション、カッティングスの循環利用による硬岩の掘削法、水中ウォータージェットのキャビテーションとその壊食性能などに関して精力的に研究され、その成果は天然ガス開発分野において多数実用化されています。

学会活動としては、資源・素材学会岩盤工学部門委員長、同東北支部長、同理事をはじめ、石油技術協会理事を歴任され、日本ウォータージェット学会では、理事、副会長を歴任された後、平成 18 年～平成 20 年は会長を務められるなど、これらの学会の発展に多大な貢献をされました。

先生は、東北大学学友会少林寺拳法部の部長を長年務めておられました (副部長：平成 3 年～平成 7 年、部長：平成 7 年～平成 16 年)。少林寺拳法は「人づくりの行」であり、人の持つ可能性を信じて自分を高め続けられる人、周囲の人々と協力して物心両面にわたって豊かな社会を築くために行動できる人を育てるのが目的なのだそうです。先生は少林寺拳法の心得は無いと話されていましたが、研究室における学生の教育・研究指導に際してのその篤い語り口には、少林寺拳法の教えに通じるものがあつたように思います。先生のこれまでのご尽力に対しまして心より感謝申し上げますとともに、ご退職後も、趣味などを楽しみながら、健やかにお過ごし頂ければと思います。先生の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

(環境科学研究科 准教授 坂口 清敏)

松木先生を囲む会 出席者名簿

氏名	卒修年あるいは所属
幾世橋 廣	旧職員
奥村 清彦	旧職員
大塚 尚寛	学部昭和50年卒
大林 清	学部昭和53年卒
成田 昌規	学部昭和53年卒
結城 則行	学部昭和55年卒
酒井 敏雄	学部昭和56年卒
遠藤 修	学部昭和57年卒
野間 達也	学部昭和57年卒
増山 仁志	学部昭和57年卒
清野 文雄	学部昭和57年卒
青木 智幸	学部昭和58年卒
松岡 久永	学部昭和59年卒
舟山 重則	学部昭和60年卒
松根 進	学部昭和61年卒
仲館 創	学部昭和62年卒
佐藤 稔紀	学部平成元年卒
徳本 毅	学部平成5年卒
大橋 弘紀	学部平成7年卒
引間 亮一	学部平成7年卒
井上 康弘	学部平成8年卒
芥川 充志	学部平成10年卒
瀬川 千智	学部平成11年卒
木崎 彰久	学部平成12年卒
佐々木雅浩	学部平成12年卒
渋谷 和文	学部平成12年卒
木村 直樹	学部平成13年卒
吉田 宣生	学部平成14年卒
高西 哲朗	学部平成15年卒
高橋 智誓	学部平成16年卒
成川 達也	学部平成18年卒
飯野 瑞輝	学部平成19年卒
後藤 久則	学部平成19年卒
木村かおり	学部平成20年卒
八幡 和洋	学部平成20年卒

氏名	卒修年あるいは所属
宇佐美順也	学部平成21年卒
金澤 佑太	学部平成22年卒
湯本 雄一	学部平成22年卒
小谷野太郎	学部平成23年卒
吉田 啓紀	学部平成23年卒
巴 亮太	学部平成23年卒
大橋 克史	学部4年生
塩谷 和幸	学部4年生
臼井 祐人	学部3年生
曾根 好徳	修士昭和54年修了
平松 直樹	修士昭和54年修了
蓑 由紀夫	修士昭和56年修了
和田 賢治	修士昭和59年修了
加藤 俊樹	修士平成16年修了
千田 祐介	修士平成16年修了
新野 敦史	修士平成18年修了
狩野 祐一	修士平成22年修了
包 暁慧	修士平成23年修了
Chung-In Lee	博士昭和49年修了
林 為人	博士平成4年修了
菅原 勝彦	熊本大学 監事
清水 誠二	日本大学工学部教授, WJ学会会長
高橋 弘	東北大学大学院環境科学研究科 教授
鴨志田直人	岩手大学工学部社会環境工学科 助教
田中 莊一	(公益財団法人) 深田地質研究所 理事長
高橋 幸悦	(社) 日本砕石協会東北地方本部 専務理事
横山 幸也	応用地質(株)
伊木 利一	関東天然瓦斯開発(株)
小島 央生	(株)スギノマシン
加藤 春實	(株)明間ボーリング
高橋 治	(株)星理科学器械 社長
坂口 清敏	東北大学大学院環境科学研究科 准教授
以上67名 敬称略	